

# 鳥取で、夏の三徳山参り

鳥取県中部の三朝町(みささちょう)にある、標高約900mの三徳山(みとくさん)。山中には、古刹(こさつ)「三徳山三佛寺」の本堂をはじめ、数多くの文化財建造物が点在しています。今年の夏は、「日本遺産」にも登録されたこの山の参拝登山道を登ってみませんか。最後に目指すのは、国宝・投入堂(なげいれどう)です。



(写真左上から時計回りに) 断崖の洞窟に張り付くように建つ投入堂/国道21号線に建つ石の鳥居が三徳山の入り口を示す/「文殊堂」から折り重なって広がる山並みを望む/「カズラ坂」と呼ばれる登山道をよじ登る参拝者/恋愛成就祈願の「護摩木(ごまぎ)」(お守り付き、1本600円、2本1100円)。毎月18日には、三佛寺本堂で護摩木法要が行われている

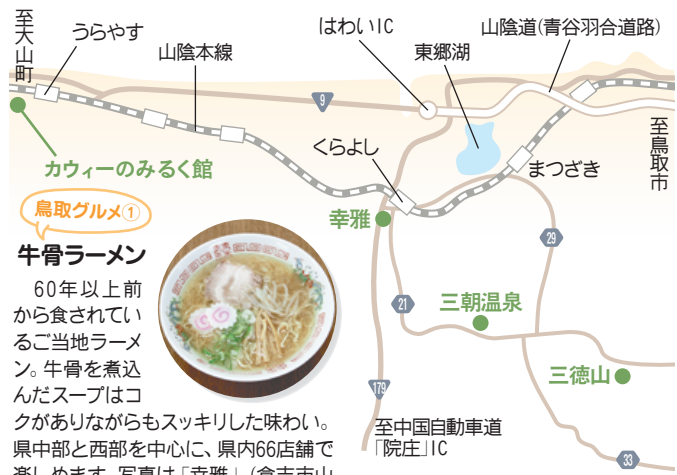
登山道には木の根や岩をよじ登るなど険しさを伴うところもあり、投入堂までの道のりから「日本一危ない国宝鑑賞」といわれています。健脚ぶ

りに自信がなくても、麓の「投入堂遙拝所」に投入堂が見られる望遠鏡が設置されているので安心を。さて投入堂までの道中はどういうと、周囲の景色も鎮座するように建つ6つの文化財建造物も、全てが美しく崇高。舞台造りの「文殊堂」は崖の上に絶妙なバランスで建ち、岩のくぼみに建つ「納経堂」は投入堂と同じく、現存する神社建築としては日本最古級(平安時代後期)とされています。

流れ出る汗をぬぐいながら、時に岩肌をなめるように進み、標高は約520m。断崖絶壁に建つ投入堂が姿を現します。どうやって建てられたのか想像もできず、麓で組み立てたお堂を法力で投げ入れたという伝説さえ納得してしまふほど。また同時に、目の当たり

観光資源の掘り起こしや地域活性化などを図ろうと、国が今年4月から認定・発信している「日本遺産」。認定基準は、「地域の歴史的価値や特色を通じて、日本の文化や伝統を伝えるストーリー性があり、その魅力を国内外に発信できること」。第1回目では、18の有形・無形文化財やそれらを含むエリアが認定され、その一つに三徳山があります。

今回の目的は日本遺産となった山に登り、三徳山三佛寺本堂や山中の文化財建造物を参拝・鑑賞することですが、特に同寺の奥院にあたる国宝・投入堂(なげいれどう)まで行くとなると、一筋縄ではいきません。というのも、三徳山はかつて修験道の行場(ぎょうば/修行の場)だった場所。参拝



鳥取グルメ①

**牛骨ラーメン**  
60年以上前から食されているご当地ラーメン。牛骨を煮込んだスープはコクがありながらもスッキリした味わい。県中部と西部を中心に、県内66店舗で楽しめます。写真は「幸雅」(倉吉市山根583・2)の「なつ旨ラーメン」(580円)。

アクセス

問い合わせ

鳥取グルメ②

**大山乳業のソフトクリーム**  
大山乳業の工場内にある直売店「カウイーのみるく館」(琴浦町保37・1)。夏は、自慢のミルクをたっぷり使ったソフトクリーム(350円)が一押し。工場見学(2人~受け付け)をした人は、店内商品が1割引きになります。

電車...JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR倉吉(約4時間) 車...一宮IC→(名神高速道路→中国道院庄IC→(国道179号線)→三朝町(約5時間)

ふるさと鳥取県産業・観光センター  
住所/中区栄4-1-1 中日ビル4階 電話/052-262-5411  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>

## 三徳山参りと併せて行きたい 現代の湯治場「三朝(みささ)温泉」

こちらも日本遺産!



日本遺産の認定基準にある「ストーリー性」となれば、同温泉です。源頼朝の家来が、三徳山で出会った白いオオカミの殺生をとどまった夜、お礼に源泉の場所を教えてもらう夢を見ます。以来、その湯は村人たちの病を治したとか。伝説の源泉は株湯と呼ばれ、今も現役。宿泊施設も充実している、こぢんまりとしながらも温泉街はにぎやかです。今年の夏は6色のLEDを使ったイルミネーションの点灯や、7月18日(土)~8月2日(日)は朝食前に三佛寺本堂へ参拝に行き、護摩木に願い事を書いて奉納する「早朝参拝バス」(500円)を運行します。

写真大/川の橋のたもとにある「河原風呂」は名物の露天風呂。同右上/三朝温泉の入り口。同左上/夜も多くの人がそぞろ歩く。石の店舗は昔懐かしい射的場